

皆さん、おはようございます。こうして皆さんとお話しするのは、3月20日の3学期終業式以来ですね。この春休みの間に、新年度が始まり、5月1日からの新元号が発表されました。つぼみだった校庭の桜も、今が盛りと、咲き誇っています。皆さんも、充実した春休みを過ごしてくれたことと思います。

突然ですが、皆さんが今一番興味を持っているものは、何ですか。私は「はやぶさ2」です。2月28日の卒業式式辞のメインテーマも「はやぶさ2」でした。卒業した71期生が課題研究のテーマとして、「はやぶさ2」の運行技術である「スイングバイ」を研究し、昨年8月のSSH全国大会で発表してくれました。そのせいもあり、私は「はやぶさ2」を、とても身近のものに感じています。

「はやぶさ」初号機は、小惑星イトカワからの帰還中にトラブルに見舞われましたが、JAXAのプロジェクトチームが、粘り強く制御を繰り返し、予定より3年も遅れて、2010年6月にイトカワの試料を持ち帰りました。「はやぶさ2」は、その後継機として、2014年12月13日に発射され、卒業式6日前の2月22日に、新たな目標である小惑星リュウグウへの接地に成功しました。その瞬間、JAXAのスタッフが「初号機とは違うのだよ。初号機とは！」と、エヴァンゲリオンとガンダムを合わせたようなコメントをされたことも、私の心に強く刻まれ、絶対、卒業式の式辞で、話をしようと決めました。

その後「はやぶさ2」は、4月5日に、リュウグウに人工的なクレーターを作る実験に、世界で初めて成功しました。ちょうど、今日の始業式の挨拶をどうしようかと悩んでいた時だったので、私と「はやぶさ2」は、何か赤い糸で結ばれているのか、運命のようなものを感じました。実験の手順としては、まず、金属の塊をリュウグウにぶつけて人工クレーターを作るための衝突装置と記録用の小型カメラを、リュウグウに向けて分離させました。続いて、分離から40分後に、衝突装置を爆発させ、重さ約2キロの金属の塊をリュウグウ表面に打ち込みました。その間、はやぶさ2は、爆発で生じたデブリと衝突しないように、安全な場所へと退避しました。そして爆発予定時間に、小型カメラが撮影した写真には、リュウグウの表面物質が砕け、飛び散っている様子が写っていたので、「実験が成功したようだ」と発表されました。リュウグウの表面物質は、太陽風などの影響を受け、風化が進んでいますが、地下の物質は、そうした影響を受けていないそうなので、地下の物質を表面に露出させ、はやぶさ2が調査できれば、小惑星の形成過程の解明につながります。はやぶさ2は、5月下旬に、装置を衝突させた場所に着陸し、物質を採取する計画だそうです。「我々はどこから来たのか」このリサーチ・クエスチョンに答えることが、はやぶさ2のミッションです。初号機との違いを活かして、予定通り2020年末に、無事地球に帰還してくれることを期待しています。

このプロジェクトが、興味深いのは、地球から約3億キロも離れたところで、このような精密な作業が予定通り行われていることは、もちろんですが、初号機の実験や失敗から、新たな課題を発見し、その課題の解決に向け、試行錯誤、Trial and Errorを重ねながらもあきらめずに、チームとして、さらに歩みを進めていることです。併せて、得られたデータに対して、とても忠実かつ謙虚であるということも素晴らしい。2月9日に、GLHS10校の合同発表会が開催され、四條畷高校からも、1月17日の課題成果発表会で、文系オーラル発表で最優秀賞となった「高齢者による自動車事故を防ぐ」のチームが発表してくれました。客観的な外部データを収集し、推論を交えず、データに忠実だったのは、10校の中で、四條畷高校が1番でした。その時点でのデータからは、自分たちの仮説を十分に立証することは、できませんでしたが、決して都合よくデータを解釈せず、その原因もしっかり分析していたので、今後の検証に期待できる、そして課題研究の基本が、しっかりしているなと感じました。発表後も、困難な状況の中で、新たにデータを収集するなど、さらに歩みを進めてくれてい

ると聞き、とてもうれしく思っています。頑張ってください。

さて、宇宙をテーマとした漫画やアニメは、それこそ星の数ほど、たくさんあります。その中から「宇宙兄弟」第39話の金子シャロン博士のセリフを紹介します。シャロン博士は、天体観測所の職員で、観測所を頻繁に訪れていた幼い頃の主人公、南波六太・日々人兄弟に、大きな影響を与えた人物です。

「迷った時はね、どっちが正しいかなんて考えちゃダメ。どっちが楽しいかで決めなさい。」

皆さんも私も、今までも、そしてこれからも、迷いの連続です。その際、「楽しい」かで決めろと言われると、何かホッとしますね。ただ、漢字は同じですが、「楽しい」と「楽」は、違います。1月8日の3学期始業式で紹介した、漫画「Baby Steps」のアニメ第1期のオープニングテーマ「Believe in yourself」の歌詞にあったように、安易に「楽」な道は、選ばないでください。今日はもう歌いませんが。

その代わりに、満開の桜になぞらえて、スピッツの「Cherry」のエンディング直前の一節を、紹介します。

君を忘れない。曲がりくねった道を行く。

きっと想像した以上に、騒がしい未来が僕を待っている。

(作詞：草野正宗)

草野正宗さんの歌詞は、独特で、色んな解釈ができます。「騒がしい」未来とは、何かこう「落ち着かない、めんどくさい」感じもしますが、私は、「賑やかな、驚きに満ちた、ワクワクできる」未来と、ポジティブに捉えています。皆さんにも、皆さんが想像する以上に、騒がしい未来が待っていることでしょう。そして曲がりくねった道もまた。さらに、エンディング、

ズルしても真面目にも生きてゆける気がしたよ。

いつかまたこの場所で、君とめぐり合いたい。

(作詞：草野正宗)

この解釈も色々できますが、私は「どんなことが起きても大丈夫。したたかに、かつしなやかに生きていける。」という自信の表れと、こちらもポジティブに捉えています。ぜひ皆さんも「騒がしい未来」を楽しんで、したたかに、そしてしなやかに生きてほしいと思います。ただ、人間ですので、そんなポジティブなことばかりではない。心や体がしんどいな、誰か話を聞いてほしいなと思うときが必ずあります。そのときは、遠慮なく私たちに相談してください。私たちも、皆さんの様子を、つかず離れず、絶えず見守りながら、必要だと思ったときは、声をかけていきます。私の願いは、皆さんも、そして私たち教職員も、心も体も元気で、「来てよかった」と思える四條畷高校にしていくことです。今日の午後、入学式を迎える新1年生と一緒に、創立116年の今年もまた、新たな伝統を創っていきましょう。6月の畷高祭オープニングで歌うアニソンは、もう決めました。現在練習中ですので、当日は、皆さん一緒に盛り上げてくださいね。これで、私のあいさつを終わります。